

2023. 9. 4

No.010

本部「申38号」団体交渉

社員一人あたり借金2,300万！？ 目標に届かないのは現場のせい？

本部は「申38号 2023年度夏季手当不足分の追加支給を求める申し入れ」の交渉を行いました。

申38号=2023年度夏季手当について、基準内賃金（エルダー社員は基本賃金）の0.7ヶ月分+5万円を追加して、さらに支給を求めた申し入れ

会社は財務学習会にて「借金を社員一人あたり2,300万円背負っている」などと話し、経営環境が厳しいと危機感を煽っています。しかし、実際には**役員報酬は増え**、「TAKANAWA GATEWAY CITY」をはじめとした**大規模開発に投資**するなど、**赤字を増やしているのは経営陣自身**です。

現場の社員は「赤字だ・稼げ」と危機感のみを煽られれば、収入のみに意識が行ってしまい、鉄道の最大の使命である安全への意識が薄れていきます。その結果の行き着く先は福知山線脱線事故であり、多くの命が失われることに繋がります。現に東海道線での電化柱衝突事故をはじめ、多くの事故・事象が発生しています。

また、交渉の中で**会社が社友会に補助を出していることが明らか**になりました。

（詳しくは支部情報No.11にて）

夏季手当交渉時、会社は「**最大限の判断として2.5ヶ月+5万円ということしか出せなかった**」と言っていましたが、任意の集まりである社友会に資金支援を行うなど、言っていることが違っています。

会社は目標数値に届かなかったのを現場のせいにするのではなく、自分たち経営の責任だと認めるべきです。そして現場で努力している全社員にしっかり報いるために追加支給するべきです。黒字化を実現するため、現場で奮闘する社員の努力には応えず夏季手当を低額に抑える一方、大規模開発や社友会に資金をつぎ込むのは明らかに間違っています！

経営環境の厳しさは経営陣が作り出しているものだ！

**会社は誤魔化さずに、
現場の社員の努力に報いるべきだ！**